

活動報告書

報告者氏名：今村志保 所属：長野県諏訪養護学校 記録日：平成25年 2月 25日

【対象児（群）の情報】

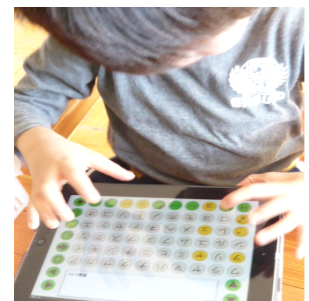
- 学年 小学部2年
- 障がい名 運動発達遅滞
- 障がいと困難の内容
K児は、小学部2年生で、言語理解は年齢相応に近いが、発語が無いために音声による会話はできない。

【活動目的】

- ねらい
発語の困難な児童に、言葉の代替になるアプリケーション（トーキングエイド for ipad、Dorp Talk、電車が動く、モジルート、ナゾルート、ひらがなぞり、写真、にほんごーひらがな など）をダウンロードし使い方を練習し正確に文章を打つことで、自分の思いを伝えたり、先生や友達の質問に答えたりして、コミュニケーションを図る。日常生活の中で、代替コミュニケーションツールの一つとして活用することができる。
- 実施期間
平成24年9月 ～ 平成25年3月
- 実施者
今村志保（自立活動専任教諭）、佐藤美保（教諭）、苔田摩紀（講師）
- 実施者と対象児生の関係
所属する学級の担任 及び 自立活動担当

【活動内容と対象生徒の変化】

- 対象児の事前の状況
K児は、小学部2年生で、音声による会話はできないが、日常生活レベルであれば、こちらの言っていることが理解でき、聞かれたことや伝えたいことを「ひらがなボード」を使って伝えることができる。しかし文章が長くなったり、伝えたいことがいくつも重なったりしたときに「ひらがなボード」では対応できないことが多くなってきた。また、K児が自分の興味のあることについて一方的に伝えることが多かった。
- 活動の具体的内容
スムーズに会話ができるように打った仮名が文に残り、文章を発音してくれるアプリケーション（トーキングエイド）を使うことにした。日常生活の中でスムーズに使えるようになることを目指して、トーキングエイドの他にも、K児が興味を持って使えそうなアプリケーションも幾つか入れ、毎週木曜日の個別の学習で使い方ややり取りの学習を行っている。



学習では、「電車が動く、モジルート、ナゾルート」などの好きなアプリケーションを自由に使う時間、「トーキングエイド、

① (トーキングエイドで文を打つ)

「Dorp Talk」を使って質問に答えたり聞きたいことを質問する時間（写真①）、「カメラ機能」を使って写真を撮る時間（写真②）、撮った写真をクラスの友達に紹介したりする時間を設けている（写真③）。

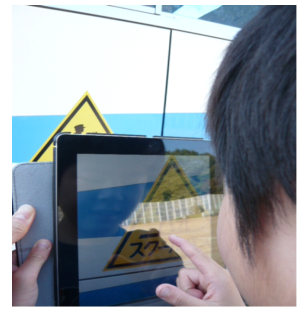
学習の初めに自由にアプリケーションを使う時間を設けたことで、どのように操作するとやりやすいのかを自分なりに見つけることができている。

「質問の時間」には、教師も言葉で質問をするのではなくトキングエイドを使って質問している。K児は何を質問されているのか、画面を見て、聞いてより集中して質問に答えようとする姿が見られるようになってきた。また、今までは自分の質問に答えてもらおうと満足してそれで終わっていたが、教師側からの質問を受けて、自分の聞きたいことが出てきて質問し返すと言うように、コミュニケーションの幅が広がってきた。



④（さつまいもを探そうの単元でさつまいもを近くの森へ探しに行く）

2学期後半には、クラスの生活単元学習の中で校外に持ち出して、隠したさつまいもの場所の写真をもとに、さつまいもを探す活動を行った。友達の探す場所の写真を見せたり、何カ所に隠してあるのか確認したり、K児を中心にクラスの児童達もiPadを学習の中で使うことができた。



②（写真を撮る）



③（友達に紹介）

・対象児（群）の事後の変化

毎週時間を決めて学習することで、次第に一人でiPadの操作ができ、学校の日常生活の中で使う頻度が増えている。

地域の小学校へ交流に行った際、K児からiPadを取り出して、自己紹介をしたり地域校の友達の写真を撮って、その友達に見せたりしてコミュニケーションを取っていた。

学習発表会では、K児の固定のせりふを、「Dorp Talk」にK児が「ひらがなボード」を打った音を録音し発表したり、アドリブのせりふを「トキングエイド」を打って発表したりすることができた。

【報告者の気づきとエビデンス】

・気づいたこと

- ・話した内容がiPad上に文章が残るので、K児が話したい内容がより分かり、会話の量が増えてきた。
- ・学習の初めに自由にiPadを使う時間を設けてことで、いろいろなアプリケーションに興味をもち使うことができた。特に時計のアプリケーションは、K児の個別の学習でも行っており、アプリケーションを使って時計が徐々に読めるようになってきている。

・その他エピソード

- ・K児が毎日クラスで使うことで、クラスの友達もiPadに興味を持ち、見たり触ったりして楽しんでいる。K児の周りにクラスの友達が集まってきて、撮った写真を一緒に見たり、アプリケーションの使い方を教えてあげたりなど、教師がコミュニケーションの場を設定しなくても、自然に場ができている。